

## 凡例

一、本書は、平成一六年一〇月一日の市町村合併によって二四年の歴史を閉じる内海村の最後の村史として、内海村史編纂委員会の企画編集によって発行したものである。編纂にあたっては、昭和二八年発行「内海村史」上・下巻その他各種資料を参考に、内海村の歴史を出来るだけ網羅する編纂を心がけた。「自然」、「地区誌」、「歴史」、「分野別」、「人物」、「研究」、「資料」、「年表」の八編で構成し、それぞれ章・節・項に細分して記述した。

一、本書の内容において、地区、時代、項目により叙述の厚薄が生じたが、これは時間的制約による資料収集の不足、利用できる資料の偏り等の理由によるものであるので、ご了承いただきたい。

一、本文の記述については次の点に留意した。

1 原則として常用漢字、現代仮名遣いを使用した。ただし、固有名詞、特殊な用語等については必ずしもこの原則にはよらないこととした。

2 難解な漢字、地名などには適宜ふりがなを付した。

3 人名は歴史的記述の通例にならって敬称を略したが、文章表現上これによらないところも生じた。

4 資料については原則として原文のままとしたが、必要に応じてひらがなに改め、文の一部を改めるなどした。

5 年号は、原則として日本年号を用い、必要に応じて西暦を（ ）で示した。

6 参考・引用文献は巻末にまとめて掲載した。ただし、第一編「自然」及び第六編「研究」については各節の末尾に掲載している。

一、本文中に、必ずしも妥当でない用語もあるが、それらは過去の事実を正しく捉え、科学的歴史研究を進める立場からそのまま掲載した。あくまでも不当な呼称を容認するものではなく、実証的・科学的な歴史認識を通じて差別の根絶を望むものである。読者におかれては、この立場を理解され本書が正しく利用されることを期待するものである。

一、編纂に際して、資料の提供をいただいた方々に感謝し、そのお名前を本書末に掲載した。

一、本書の執筆分担及び執筆者氏名は本書末に示した。

一、題字は元内海村長中尾喜六の揮毫による。

## 目次

口 絵

序 文

凡 例

## 第一編 自然

第一章 村のすがた

第一節 位置境界

第二節 面積

第三節 人口

第四節 行政区画

第二章 村の自然

第一節 気象・気候

第二節 地形・地質

第三節 植物

第四節 動物

## 第二編 地区誌

第一章 網代地区

第二章 魚神山地区

第三章 油袋地区

第四章 家串地区

第五章 平落地区

第六章 須ノ川地区 ..... 108

第七章 柏崎地区 ..... 114

第八章 柏地区 ..... 120

第九章 旧内海村の地区 ..... 135

第三編 歴史

第一章 原始・古代

第一節 先史時代 ..... 141

第二章 中世

第一節 鎌倉時代 ..... 151

第二章 中世

第二節 室町時代 ..... 153

第三章 戦国時代

第四節 安土桃山時代 ..... 167

第三章 近世

第一節 宇和島藩政草創期 ..... 171

第二章 宇和島藩政中期

第三節 宇和島藩政後期 ..... 183

第四章 幕藩体制崩壊期

第五節 宇和島藩政下の内海 ..... 191

第四章 近代

第一節 明治維新と内海 ..... 212

宇和島藩の郷中改正と廃藩置県（明治二年～明治五年）

大区小区制時代（明治六年～明治十一年）

郡制施行、内海浦・柏村単独戸長役場設置時代（明治十二年～明治十七年）

第二節 内海村の成立

内海浦外一ヶ村時代（明治十七年～明治二十二年）

初代～第二代村長中尾亮一（中尾亀吉）時代（明治二十三年～明治二十七年）

第三節 内海村の近代化

第三～六代村長清家爲治郎時代（明治二十七年～明治三十九年）

第七～一〇代村長實藤大治郎時代（明治三十九年～大正七年）

第一一代村長清家爲治郎時代（大正七年～大正九年）

第二二～三三代村長猪野忠一時代（大正九年～大正十五年）

第一四代村長猪野熊太郎時代（大正十五年～昭和三年）

第一五代村長實藤道久時代（昭和三年～昭和七年）

第一六代村長吉良義利時代（昭和七年～昭和十一年）

第一七代村長猪野熊太郎時代（昭和十一年～昭和十五年）

第一八代村長實藤道久時代（昭和十五年～昭和十八年）

第一九代村長宮下莊造時代（昭和十八年～昭和二十二年）

第五章 現代

第一節 分村と産業危機 ..... 277

第二〇代村長廣瀬友一時代（昭和二十二年～昭和二十六年）

第二一代村長赤樫芳馬時代（昭和二十六年～昭和三十〇年）

第二節 内海村発展への挑戦

第二二～二六代村長中川庫一時代（昭和三十〇年～昭和五〇年）

第三節 内海村の高度経済成長……………303

第二七〇～二八〇代村長中尾喜六時代（昭和五〇年～昭和五八年）

第二九〇～三〇〇代村長高橋嘉馬時代（昭和五八年～平成二年）

第四節 ふるさと文化の創造……………308

第三一〇代村長中川二三男時代（平成二年）

第三二〇代村長中村政一時代（平成二年～平成六年）

第五節 真珠産業の崩壊……………312

第三三〇～三四〇代村長赤樫重幸時代（平成六年～平成一三年）

第三五〇代村長加幡仁一時代（平成一三年～平成一六年）

第四編 分野別……………329

第一章 産業……………331

第一節 水産業……………331

第二節 農林業……………342

第三節 商工観光……………356

第二章 民生……………361

第一節 福祉……………361

第二節 医療衛生……………365

第三節 上水道……………374

第四節 下水道……………376

第三章 土木……………378

第一節 道路交通……………378

第二節 漁港……………393

第三節 通信……………417

第四章 防災……………425

第一節 災害……………425

第二節 消防……………428

第三節 防犯……………436

第五章 軍事……………438

第一節 軍事……………438

第六章 教育……………478

第一節 学校教育……………478

第二節 社会教育……………534

第七章 文化……………553

第一節 伝統文化……………553

第二節 文化活動……………609

第三節 生活……………623

第四節 方言……………682

第五節 地域づくり……………693

第八章 宗教……………719

第一節 寺院……………719

第二節 神社……………731

第三節 その他の信仰……………759

第五編 人物……………773

大用国師誠拙周樗（家串）／山崎仁三郎（柏）／樫田忠藏（柏）／好村忠五郎（柏）／戎崎廣次郎（魚神山）／浦和盛三郎（網代）

／児島惟謙（赤水）／栗田久太郎（柏）／宮下亀一郎（柏）／中尾亮一（深泥）／清家爲治郎（赤水）／雲邊寛洲（家串）／實藤大治郎（柏崎）／中村 要（柏崎）／牧野彦六（平落）／濱地三千助（網代）／吉良傳太郎（平落）／猪野熊太郎（中浦）／大澤宏堂（柏崎）／實藤道久（平山）／林 近太郎（魚神山）／宮下莊造（柏）／廣瀬友一（柏崎）／坂元達雄（柏）／増元六三郎（柏崎）／中川庫一（平落）／織田平太郎（油袋）／内海突破（魚神山）／中尾喜六（平落）／川西志郎（柏崎）	
第六編 研究	803
第一章 「宇和海沿岸の海外出稼ぎと内海村」——オーストラリア真珠貝採取漁業出稼ぎを中心に——	806
第二章 「浦和盛三郎」——開明の時代とは？ 問い続け、生きた男——	818
第三章 「海軍佐伯防備隊由良岬衛所について」	827
第四章 故坂元達雄遺稿「村史研究——祖先とともに——」	839
第五章 故坂元達雄遺稿「わが村の祖先研究」	849
第七編 資料	865
第一章 「内海村の俳諧と歌壇」	867
第二章 古記録集	911
第三章 石碑等	975
第四章 役員一覧	1013
第五章 内海村一般会計決算額一覧	1058
第六章 内海村小字一覧	1067
第八編 年表	1079
参考文献	
『新訂内海村史』編纂事業参画者一覧	
あとがき	
『新訂内海村史』の編纂を終えて	

# 第一編 自然